

解答

一

- 問一 a 停留所 b みちぞ〔い〕 c 借〔りた〕
 問二 まる二日間、窯のそばにつきっきりになり火加減を見ること。
 問三 イ
 問四 最初：一子相 最後：な次男
 問五 3
 問六 生まれ育った皿山だけが世界ではないことを知りはじめ、この場所が少しだけ息苦しく思えてきたから。
 問七 ここに流れ
 問八 ● 皿山に流れている時間を重いと感じる思い。
 ● 生まれ育った皿山を好きだという思い。
 問九 じゅうげもん
 問十 ア、オ

二

- 問一 a 遺産 b 価値観 c 複雑
 問二 (1) イ (2) エ
 問三 狩野永徳の作品
 問四 1 いがみあう戦国大名たち
 2 調和
 問五 エ
 問六 ア
 問七 当時の人たちが、どんなコミュニケーションをしようとしていたのか、どんな夢をもっていたのか、どんなことを想像していたのかということや、牛を描くために一生懸命悪戦苦闘した様子までが伝わってくる点。
 問八 伝達
 問九 エ
 問十 1 なんとかして自分の思いを伝えたい
 2 仲良く

三

- 問一 a 拳〔げられる〕 b 単純
 問二 ア
 問三 原因
 問四 オ
 問五 がち
 問六 1 イ 2 エ 3 ア
 問七 イ

四

- ① オ・ソ ② ウ・コ ③ エ・セ ④ キ・タ ⑤ エ・サ

五

- ① エ・ケ ② ア・ク ③ キ・コ ④ イ・オ ⑤ ウ・カ

解説

□

問いハ

本文の後半に「わたしのなかで（皿山での）時間は、古ぼけた厚い布団のようなもの」で「重く湿って」「身動きがとれなくなっていた」とあり、一方で、本文の最後で「ここが好きやけん。そうわたしは思った」とあります。

□

問い七

続く部分で、「どんなコミュニケーションをしようとしていたのか、どんな夢をもっていたのか、どんなことを想像していたのか、ということ」や、「牛を描くのに」一生懸命悪戦苦闘した様子が伝わってくる」と述べられています。